（３）令和５年度　学校経営報告

東京都立篠崎高等学校長

自己評価の基準【A】十分達成できた　【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった【D】全く達成できなかった

１ 今年度の取組と自己評価

（１） 教育活動への取組と自己評価

ア　生活指導・健康教育　達成度【A】

＜目標＞　挨拶の励行、時間厳守の精神、通学時のマナーを意識し、自己管理能力（自律心）の育成を図る。

＜方策＞

① 全教職員による挨拶の励行、遅刻指導や頭髪指導、服装や身だしなみ等への指導を徹底し、基本的な生活習慣を身に付けさせ、凡事徹底できる「篠高生」を育成する。

② 時間厳守の基本である登校時間を守らせ、生徒の遅刻防止につなげる。

③ 登下校時の交通ルールやマナーの遵守、特に自転車通学者には、傘さし・イヤホン・並進等の禁止等について指導を徹底する。

④ 教育相談委員会を充実させ、スクールカウンセラーと連携し、生命尊重の精神やいじめの未然防止を図る。

⑤ 年間２回の面談週間を活用し、家庭・保護者との連携を深め、家庭や学校外における生徒の状況把握と情報共有を行い、生徒の出すサインを見逃さない体制を構築する。

⑥ ＳＮＳに関するモラルについての指導を徹底する。

⑦ ゴミの分別や清掃活動等を通して校内環境の維持に努め、リサイクル活動など環境問題に向けた取り組みに着手する。

＜取組・自己評価＞

① 生徒指導部を中心に、毎朝の生徒玄関付近での指導をはじめ、日頃から挨拶や身だしなみ指導を徹底した。

② 年間遅刻延べ回数は、各学年とも昨年度より減少した。

③ 自転車通学者の傘さしやイヤホン・スマホを使用ながらの運転禁止は、ほぼ徹底することができたが、並進は十分ではない。

④ 教育相談委員会を年間20回以上開催し、スクールカウンセラーと連携を図り生命尊重など安全教育につなげた。

⑤ ６月と11月の面談週間に限らず、適宜、各学年担任等が保護者への連絡をとり、生徒の状況をきめ細かく把握するとともに、全教職員で情報共有を行うことができた。

⑥ 年度当初に「篠崎高校ＳＮＳルール」を確認し、始業式や終業式等で注意喚起を徹底したが、ＳＮＳによるトラブルがあった。

⑦ 職員室の環境改善を図ることができた。また、リサイクル活動としてコンタクトレンズ空ケース回収を継続実施した。

イ　学習指導　達成度【B】

＜目標＞　基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。

＜方策＞

① 50 分の授業を有効活用するため、チャイム始業、チャイム終業を徹底する。

② 「分かる授業」を合言葉に、毎時間の授業では、授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。ＩＣＴ等の視聴覚教材を積極的に活用する。

③ 「習熟度別授業」「少人数指導」を継続して行い、生徒の実態や習熟度に応じたきめ細かい指導を行う。

④ 放課後や長期休業期間等を活用し、補習・講習の充実を図る。個別指導も進め、基礎・基本の確実な定着を図り、進路実現に結びつける。

⑤ 定期考査、「生徒による授業評価」、年２回の「相互授業参観月間」等を活用し、教科ごとに授業改善を行う。

⑥ 各種検定取得に重点を置き、成功体験と成就感を持たせる指導を展開する。漢字検定、英語検定の全員受験や数学検定、情報関連の検定等も推奨し、検定受検者及び取得者の増大を図る。

⑦ 学校図書館の活用を増やし、生徒の読書活動を計画的に実施する。

＜取組・自己評価＞

① チャイム始業、チャイム終業は徹底できた。

② 毎時間の授業での「本時のねらい」の明示と「本時の振り返り」を概ね実施できた。また、普通教室でのＩＣＴを活用した授業をほとんどの教員が実践できるようになった。

③ 国語（古典）・数学・英語での習熟度別少人数授業を継続して行い、きめ細かい指導につなげた。

④ 長期休業中に生徒の実態に応じた補習や講習を実施した。また、放課後にも補習・講習を行い、基礎学力の定着を図った。さらに、進路実現を目指す生徒の論述問題に対する個別の添削指導も行った。

⑤ 年度初めに、今年度の組織目標を各教科で設定し、中間報告及び年度の総括を行った。特に「生徒による授業評価アンケート」は、各教科とも科目ごとに分析し、成果と課題を確認した。「相互授業参観」を積極的に実施した。

⑥ 漢字検定や英語検定を全員及び希望者を対象とした回を計画的に実施した。生徒の合格率も十分であり、数学検定や情報処理関連の検定受検の取組にも意欲的な取り組みが見られた。

⑦ 都立学校図書館専門員２名配置や図書委員の生徒の活動により読書支援が十分に推進された。

ウ　進路指導　達成度【A】

＜目標＞　「人間と社会」「総合的な探究の時間」と進路活動を有機的にタイアップさせ、生徒が自己理解を深め、適切な進路選択と進路実現を図ることができるようにする。

＜方策＞

① 大学入試説明会、進路ガイダンス、大学教員のデリバリー講座、合格者体験発表会、卒業生との懇談会等、進路行事を計画的・意図的に実施し、生徒一人一人の将来設計に基づいた進路指導を行う。
② 聖徳大学、東洋大学、立正大学、千葉商科大学の４大学との高大連携事業を一層推進するとともに、生徒の進学意欲を高め、大学・短大への進学率の向上と進学実績の向上を図る。
③ 「学校推薦型選抜」「総合型選抜」で必要な面接指導や小論文指導等を学校全体で取り組む。
④ 「人間と社会」（1年）、「総合的な探究の時間」（２・３年）での体験学習や探究学習を通して得られる思考力、判断力、表現力等の力を、生徒の進路活動に生かせるよう指導する。

＜取組・自己評価＞

① 各進路行事を適正かつ効果的に実施することができた。
② ４大学との高大連携事業を実施し、参加生徒全員が単位修得した。大学・短大への進学率は約70%に向上した。
③ 「学校推薦型選抜」や「総合型選抜」に対応した面接指導や小論文指導を全教員体制で組織的に実施し、生徒の合格につなげた。
④ 地域探究推進校２年目として、「総合的な探究の時間」において、実践的な探究活動を実施し充実させることができた。

エ　特別活動・部活動　達成度【A】

＜目標＞　特別活動や部活動を通して、他者理解につながる思いやりの心を育み、人間力の向上を図る。

＜方策＞

① 生徒の主体的な活動を支援し、体育祭や文化祭等の学校行事を充実させ、学校生活に対する満足度を高める。
② 部活動への加入率・定着率を向上させる。新入生は、全員が部活動に加入し、活動を通して新たな経験を得ることを目指す。生徒の興味・関心に合わせ、文化系運動系を問わず、１部活動への所属を推奨する。
③ 剣道部は関東大会出場、硬式野球部は甲子園大会出場を目指し、他の部活動も東京都における各種大会・コンクールベスト８以上を目指す。
④ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、卓越した能力をもつ生徒の個性や技能の向上、充実した学校生活を目指す意識を持たせ、学校のさらなる活性化と発展に寄与させる。
⑤ ボランティア活動、生徒会活動、中高連携部活動交流、篠高杯剣道大会、文化部発表会、江戸川区民まつり等の地域での行事に積極的に参加し、中学生や地域との交流を深め、思いやりの心を育む。
⑥ 芸術鑑賞教室やＪＥＴ、ＡＬＴとの交流を通して、日本の伝統文化や異文化を理解する教育を進める。

＜取組・自己評価＞

① 体育祭や文化祭、学年別球技大会などを生徒が主体となって実施することができた。
② 全校生徒の部活動加入率80%以上であり、加入率・定着率を概ね維持している。
③ 剣道部は国公立大会優勝、陸上競技部は都大会６位、女子バレー部は都ベスト64、軽音楽部は全国大会入賞など、各部において十分な成果があった。
④ 文化・スポーツ等特別推薦の実施に伴い、本校の教育活動について中学生及びその保護者から理解を得るとともに、受検応募者数が例年より増えた。
⑤ ボランティア活動や生徒会活動、中高連携部活動交流を更に活性化させることができた。
⑥ 芸術鑑賞教室の実施やＪＥＴ等との交流、インディアンインターナショナルスクールの生徒との交流を行い、日本の伝統文化や多文化を理解する機会を十分に設けることができた。

オ　地域交流・広報活動　達成度【A】

＜目標＞　中高連携事業の再生化や広報活動の活性化を通して、応募倍率の向上を図る。

＜方策＞

① 近隣６中学校（江戸川区立篠崎中、篠崎第二中、鹿骨中、瑞江中、小岩第二中、松江第五中）との定期連絡会や中高連携生活指導連絡会、体験授業、中高合同研修会等を充実させ、学校への地域理解と協力を得る。
② 地域の保育園、東京さくら病院との連携を積極的に推進し、生徒による奉仕やボランティア活動を通して、現在の自分を取り巻く環境について意識を高め、進むべき道を探究させる。
③ 学校説明会での学校紹介、学校運営連絡協議会での協議、本校のホームページでの配信等を通して、本校の教育の実践と成果を積極的に地域に発信し、広報活動の活性化につなげる。
④ 生徒による「防災活動支援隊」を組織し、避難訓練実施時等、生徒が防災活動の補助的役割を担えるよう支援する。また、防災サミット等で他校との有意義な交流ができるように指導する。

＜取組・自己評価＞

① 中高連携校６中学校との交流として、部活動交流、高校の授業体験に加えて、教員間の研修（適正な観点別評価のあり方等）などを実施し、関係校及び江戸川区教育委員会等との情報共有を図ることで、円滑な中高接続につながる有意義な機会とした。
② 地域の保育園、近隣の東京さくら病院との連携はコロナ禍の影響で実施できなかったが、ボランティア活動等を充実させた。
③ 本校のホームページの工夫や更新数向上によって充実させ、学校見学会や学校説明会の参加者数を例年より増やすとともに、本校の教育活動の様子や成果を地域等に発信することができた。このことが入試倍率の向上等につながった。
④ 第１学年全生徒対象に、江戸川区地域防災課と連携した防災訓練を３月に実施し、備蓄物資・ボート設置場所の確認や、マンホールトイレ・感染者用間仕切りテントの設置訓練などを学ぶ機会を設け防災教育を充実させた。

カ　学校運営・組織体制　達成度【B】

＜目標＞　教職員の経営参画意識を一層高め、ＰＤＣＡマネジメントサイクルの活用やＯＪＴ等を通して経営組織体制を強化する。

＜方策＞

① 本校の「グランドデザイン」に基づき、育成すべき資質・能力を向上させるために、教科横断的な学び等の教育活動全体を組織的に行う。
② 全教職員が、それぞれの強みを最大限に発揮し、「チーム篠崎」の心意気で、楽しく意欲的に安心して業務を遂行できる職場環境の整備と、「ライフ・ワーク・バランス」に配慮した組織的な学校運営を進めていく。
③ 経営企画室職員各職層に応じた資質・能力の向上を図り、経営参画意識を高める。レベルの高い教育活動を推進するため、予算執行や施設整備等、経営企画室所掌事項において改善を図る。
④ 部活動指導員・外部指導員の活用、ＩＴ・ＩＣＴの有効活用を進め、働き方改革につなげる。
⑤ すべての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。
⑥ 授業力向上のため、学校内外の研究授業や研究協議、研修会等に積極的に参加する。
⑦ 「地域探究推進校」（令和３年度から令和６年度までの４年間指定）として、総合探究推進委員会により、「総合的な探究の時間」の計画立案及び調査研究、「グランドデザイン」の改善や具体的な取組内容を検討し、企画調整会議をはじめ、教科主任会・教科会の組織活性化等を通して、本校のカリキュラム・マネジメントを推進する。
⑧ 「海外学校間交流推進校」として、英語科を中心に海外の中高生との異文化交流とオンラインでの国際交流を視野に入れ、時差の少ないオーストラリア等にある国際交流提携校の開拓を行う。
⑨ 経営企画室の経営参画意識を高め、生徒の安全・安心で快適な学校環境を整える。なお、防火防災等に係る設備点検や避難訓練実施に向けた事前連絡、事後の課題検討等を教員と連携して行う。
⑩ いじめ防止、服務事故防止（体罰、個人情報の管理等）、その他必要な校内研修を実施し、いじめや服務事故の未然防止や教員の資質・能力の向上を図る。
⑪ ＰＴＡ及び同窓会と連携し、高い教育効果が期待できる取り組みを行う。

＜取組・自己評価＞

① 「グランドデザイン」の３つの観点における９つの資質・能力に基づき、教育活動を実践することができた。
② 教職員各自の「時間外在校等時間」の月平均時間を減少させることができた。
③ 経営企画室職員の経営参画意識を高めるとともに、教員との連携を十分に図ることができた。
④ 部活動指導員や外部指導員の熱心な技術指導等に加え、本校教員との情報共有を十分に行うことで、教員の負担軽減や生徒の意欲向上につながった。また、ＩＣＴ等の利活用を通して、多様な働き方を推進できた。
⑤ それぞれの分掌・学年・教科において、組織目標に基づき、定期的に進捗状況を確認しながら取り組むことができた。また、次年度に向けて分掌改編を行い、効果的な組織運営を行う準備をすることができた。
⑥ 相互授業参観の参加率を上げることで、授業力向上につなげることができた。
⑦ 「地域探究推進校」として、企画調整会議等の組織活性化等を通して、本校のカリキュラム・マネジメントを推進することができた。また、生徒の活動や成果を「成果発表会」等をとおして発信するとともに、教育目標を実現することにつなげることができた。
⑧ 「海外学校間交流推進校」として、ベルギーの学校との授業における交流や、インディアンインターナショナルスクールとの交流（文化祭・和太鼓部）を図ることをとおして、異文化理解を深めるとともに、多文化共生につなげることができた。
⑨ 行政系職員の経営参画への意識意欲が更に向上し、予算、施設、学事等で学校全体を支える組織を構築している。
⑩ いじめ防止、服務事故防止研修（年度当初、8月、12月）を実施し、服務事故ゼロに意識向上につなげた。
⑪ ＰＴＡ及び同窓会と連携を図ることをとおして、円滑かつ充実した教育活動を行うことにつながった。

２ 次年度以降の課題と対応策

項目	令和５年度目標値	令和５年度	前年比	令和４年度
生徒の学校生活の満足度	90.0 %以上	91.7 %	＋ 4.7	87.0 %
生徒の授業への満足度	90.0 %以上	88.9 %	＋ 1.9	87.0 %
大学・短大進学率	70.0 %以上	64.1 %	－ 5.9	70.0 %
入学選抜推薦(特別)応募倍率	1.80 倍	1.67 倍	－ 0.02	1.69 倍
入学選抜推薦(一般)応募倍率	3.30 倍	3.11 倍	－ 0.19	男子 3.21 倍 女子 3.46 倍
入学選抜一次応募倍率	1.30 倍	1.20 倍	－ 0.04	男子 1.27 倍 女子 1.21 倍

○ 地域探究推進校としての取組の充実
各分掌、教科、特別活動（行事、部活動等）における生徒の「探究力」「地域貢献」「表現力」の育成につなげる教育活動を地域や関係機関等との連携を更に強化し取り組む。

○ 生徒の可能性を最大限に伸ばす取組
生徒の「主体性」の育成と「希望進路実現」を達成するよう組織的に取り組む。

○ 本校入学選抜応募倍率の向上
生徒の変容や活躍等を在校生同士が知り合え切磋琢磨していく機会を設けるとともに、保護者、卒業生、中学生及びその保護者、中学校、大学、地域、関係機関等に対して本校の「魅力発信」を推進する。